

No	作品名	出展者名	作品についての説明
47	雪の雫	芝裕子 (神奈川県)	しっとりとしたシルクの艶にキラキラと輝くビーズを編み込み、ハンキングオブジェを作成しました。雪の結晶が柔らかく降り積もる様子と、溶けた雪が雫となって落ちゆく姿をイメージしました。あらかじめ絹糸にビーズを通し、直接編み込みながら作成しています。
48	赤ちゃんの素肌に 富岡シルクの ふんわり絹の靴下	梅澤和美 (群馬県)	赤ちゃん(孫)が生まれた時、肌に触れる最初のもは、天然素材のものがいいと思いました。この企画を知り、思いは孫のため、私でもつくれるものと思い、初めてチャレンジしました。シンプルが一番と Youtube を見ながら作ったのですが、左右のバランスが今一つ。でも思いは人一倍です。富岡シルクの肌ざわり大好きです。残りの糸で次は孫に何をつくらうか、思いが先行しています。
49	白いセーター	穂川むつ子 (群馬県)	ふんわりとした純白のセーターを編もうと思いましたが、私の技術では糸が細くて難しいので、細い綿の糸を合わせ二本取りで編みました。そのためふんわり感は減りましたがなんとか仕上がりました。欲を言えば「もっと時間が欲しい」ですが、年末の忙しい時によく編んだと思います。春先に着て出かけたと思っています。(白く見えるモチーフを選びました。)
51	富岡シルクの ドレス	南部美恵子 (群馬県)	コロナが治まって豪華客船の旅を夢見つつドレスを製作しました。富岡シルクの光沢、柔らかさ、長繊維を生かしてのドレス、色々着回しが出来る様に、袖を取り外しフォーマルドレスに、袖は衿として、ブローチはチョーカーとしても使える様にしました。身頃のモチーフはソフト感と立体感に気を付け、型がくずれない様にリングを使用しました。あと付け部分が多く、モチーフの糸始末が大変でした。袖はクレスト編みで優雅なドレープを加えました。不慣れの染色が幸いにして、あいまい色を使つてのグラデーションが自分としては満足の出来栄となりました。一緒にビーズも染めました。
55	上州と尾州の 糸を使って	原恵美 (愛知県)	私は長年編み物を趣味としてきましたが、絹糸で編んだことはありませんでした。このシルクニット展の募集を知って、一度絹糸で編んでみたいと思い参加することにしました。尾州(愛知尾張西部エリアから岐阜県西濃エリア)という地域で生まれ育ち、かすり染で染めた絹糸が手元にあったので、上州(群馬県のほぼ全エリア)の白い絹糸と引きそろえて2本取りで大きな三角ショールを編みました。(長いところで180センチ) 編んだ模様も気に入り、これと決めたらサクサクと編めました。出来上がり後羽織ってみました、柔らかくてとても温かく、年中使えるような気がします。
56	藍染めのラウンド カーディガン	山崎智子 (群馬県)	富岡製糸場の設立に尽力した洪沢栄一氏をイメージして、藍染して作品を製作しました。作品の中心は、無垢の白、次第に藍と白の2本どり、藍の2本どり…と変化させました。縁編み近くになって、再び白に変わっています。日本の名産、絹の白から藍に変わり、そして原点の富岡シルクを見つめる、という作品です。明治生まれの祖母も新潟県新発田市から福島県の製糸場で働いていたと聞いています。機結び(生糸と生糸をつなぐ結び方)が上手でした。生糸の歴史に想いを巡らせた作品です。
58	透け感のある ポレロ	中村喜和子 (群馬県)	この絹糸は、細くてとても柔らかい手触りです。梅雨寒の頃に羽織る、絹が生きる透け感のあるポレロが作りたくなりました。真っ直ぐな長方形のものを2枚編み、一捻りして引き抜きとじをするだけで胸元にドレープができる、カジュアルにもドレスにも着こなせるデザインだと思います。所々に縄編みを入れて、変化をつけました。
59	ネックウォーマー 「ロンド」	幸子 (群馬県)	TOMIOKA SILK に Cotton のレース糸(ブルーミックス)を合わせて使い、色のアクセントと補強を兼ねました。やわらかさを生かすため棒針編みをしましたが、それだけだと弱くなるからです。着物の時にも使えるように、頭から被るスヌードではなく、ボタンと紐を付けました。
61	デビュータンの ための白いドレス	高橋真子 (茨城県)	糸を見た時、美しい光沢が映えるような作品にしたいと思いました。モデルにしたデビュータンの白は、約20年前にドイツで購入した思い出のある子です。欧州では、成人した上流階級の令嬢が社交界デビューする時、純白のドレスを着るとか。これをデビュータンの白というそうです。制作時は、糸の汚れと毛羽立ち防止のため、手袋をして編みました。優美なドレスにするために、いろいろな編み方を組み合わせています。ヘッドドレスにはパールビーズを編み込みました。肩にはリボン飾りをつけ、袖はフリルたっぷりです。シルクの糸は張りがあるので、スカート部分のきれいなラインが出せました。
62	お花が揺れる ストール	坂下律江 (三重県)	光り輝いていて艶やかで柔らかく、とても繊細な絹糸、一目一目心を込めて編ませていただきました。編みながら、昔母が良く話してくれたことを思い出し、とても素敵な時間を作ることができました。母は着物の仕立てをしており、絹物を多く扱っておりました。絹はなめらかで風合いも良く、それで繊細で、扱いにはとても気を遣っておりました。冬場は特に手荒れにならないよう気を遣っておりました。にもかかわらず、自分の不注意から手荒れを起こしてしまい、手袋を装着しないと編めなくなり反省すると共に母との時間を共有出来たような幸せな時間でした。